

津・南立誠小5松永君 最優秀

全国選抜小学生プログラミング大会の県大会（中日新聞社など主催）で、津市立南立誠小学校5年の松永健伸君（11）が、最優秀の中日新聞賞を受賞した。食品の廃棄をなくそうと、消費期限の近い食品を知らせてくれるプログラムを作成。受賞に「びっくりした。身近な問題を解決できる他のプログラムも作ってみたい」と喜ぶ。

（豊田直也）

消費期限知らせる機能作成 全国選抜プログラミング県大会



食品の消費期限を知らせるプログラムを作成した松永君。津市鳥居町の中日新聞三重総局で

同い年のいとこの影響で小学4年の時から週1回、オンライン上のプログラミング教室で学んでいる。受賞は、お土産でもらった菓子の消費期限を切らせてしまったことがきっかけで発案した。「世界には餓死する人もいるのに、食品を無駄にしてはいけないと思った」。初めて自分で作ったプログラムだとい、「300行ぐらいの思ったよりも短いコードで作れた。思い通りに作れて自信になった」と話す。

プログラムは、食品の名前や消費期限、保存場所などをパソコン上で登録すると、消費期限が迫った食品を知らせてくれる。消費期限までの日数で「3日以内」などと検索することもできる。県大会後には、消費期限の迫った食品を使ったレシピを検索できる機能も追

加。レシピは、生成AI（人工知能）に作成させた。県大会は、作品の内容に関する1次審査と、作品を紹介する3分の動画による最終審査があり、発想力や表現力、技術力を基準に評価された。3月3日に東京で開かれる全国大会に向けて、松永君は「丁寧に分かりやすいように発表し、優勝したい」と意気込んでいる。